だいすけのライフヒストリー

現在のだいすけ　自己紹介

診断：（病院に行けば…）ギャンブル依存症、LD
「ギャンブルはかけがえのない存在」
ちょうどよい距離間で付き合っていきたいが…

お仕事：よりそいホットラインのコーディネーターとして働く（カルテ入力員として関わり始め、相談員～コーディネーターへ）

生い立ち

- 父、母、2歳上の姉のもとに産まれる
- 父はDVでギャンブル依存で風俗に通い、家庭を顧みない
- 母は天然で騙されやすいタイプ
- 姉は定型発達の優等生タイプ

周囲から見ると、中流の普通の家庭と見えていただろうが
家では、父の暴力が日常化　父は恐怖、緊張の対象

⇒「もともと、不安や緊張が高いタイプだったのに、
家庭の中には不安や緊張だらけ…」

子ども時代の記憶をたどると…
幼稚園、学校から飛び出していた

- 緊張や不安が高い状態で集団に参加していたので、ちょっとの環境の変化やストレスに耐えられなくなる

→幼稚園や学校から逃げ出しては、怒られる

- 友達関係や部活など、楽しかったが、授業中にノートをとることができない、テストを時間内に終えられない（書くスピードが間に合わない）ため、中学あたりから授業についていけなくなった

子ども時代の記憶をたどると…
理不尽な教育虐待　父の存在

- 成績のことで、父から怒られ、殴られ、父が寝るまで正座をさせられるなど、理不尽な躾（教育虐待）

中３の時には「こんな生活疲れた」という母に「離婚していいよ」と伝えたが、実現せず

高校中退、父の犯罪、両親の離婚

- 高校に馴染めず、彼女とも別れ、通う動機がなくなり、単位を落として、退学(1年生の9月で)し、引きこもり
- 16歳の夏に父の横領と二回目の借金が発覚し、解雇される。自殺しようとするも、失敗

自殺してもらいたかった…

ついに！めっちゃ嬉しい

- 4人で暮らしていくあてもなく、母がいよいよ離婚を決意、生活保護世帯となる

これが力か…

→最初は母一人で生活保護申請に行ったが、受理してもらえず、宗教団体関係者と再度一緒に行くと、受理されたと思った)

- 離婚後に父は強盗致傷罪で逮捕される

やっぱり…

2回目の高校時代（定時制高校）

- 生活保護を受けたことで、ケースワーカーから学校に行くか働くかどちらかを迫られた

ちょうど、このままではヤバいと思ったタイミング

- 定時制高校に入学するも、先生と衝突してばかりいた（2年遅れの問題生徒）

ただし、問題の生徒だったことで、保健室や支援につながっていったり、親身な先生たちにも出会えた

→その定時制高校は多様な課題のある生徒たちへの対応に力を入れていた（外部の支援も多く入っていた）

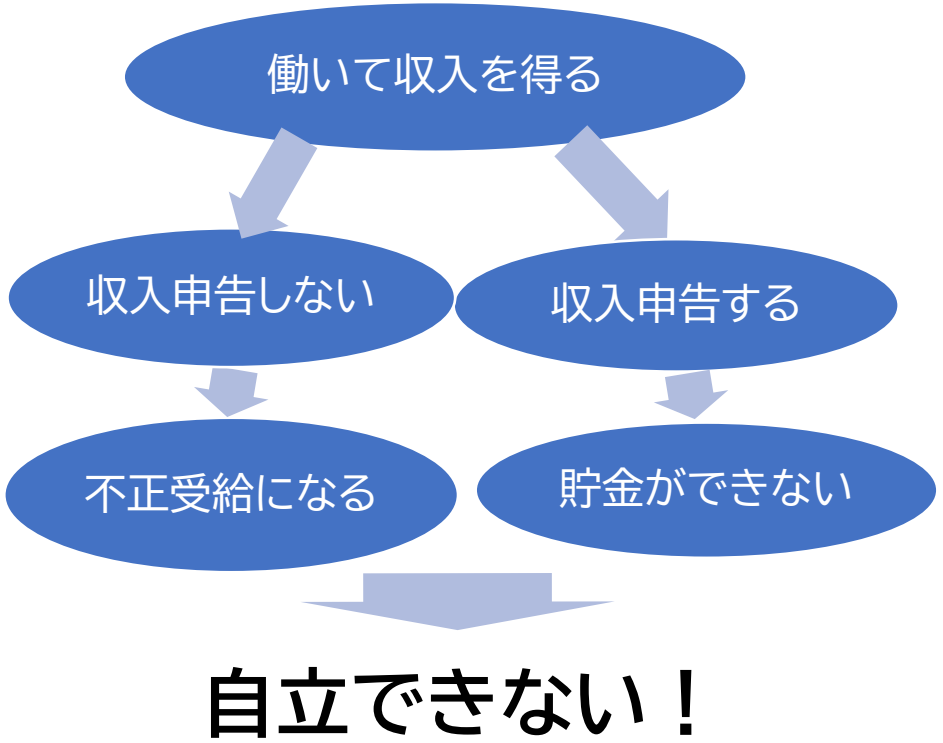
学校の就職指導への違和感

- どの仕事につけばよいか全くわからなかった（自分の将来について考えるというリアリティがなかった）
- 周囲から意味もなく課せられるリミット（卒業までに就職を決めなければならない）
- 自分なりに考えて行動しようとしたが、先生本位の指導が優先され、強制力が容赦なく働く

事件発生：面接に失敗した後に、「面接のために」と、先生に髪を切られてしまった衝撃

生活保護世帯からの自立しようとしても…

- 職業訓練を経て、就職するも、
自立のための貯金の手立てがなかった



自立する方法はないじゃないか！

何とかしようと思うと苦しくなるので、
何もしなくなった

でも、何もしないのも苦しい　親からは働けと言われ、友達にも理解してもらえず、働けと言われ、誰とも関わりたくない…

このまま、死んだように生きのびるしかないのか…

そんな中、高校時代の先生に連絡をする

- 卒業時にリスクを見極めていた先生は、在学中に外部の支援者に顔合わせをしていた
- 窮地に陥ったときに学校の先生や支援者の顔が浮かぶ
- だたし、「困っています」「相談があります」「助けてください」という発信ではなく、オリジナル発信をしただけ

→でも先生は気付いていた！

新しい環境で自立を目指すことができたわけ

①保証人などの手続きがいらず、手ぶらですぐに住める家と食べものがあった。
（生活保護世帯で学校を卒業したため、身分を証明するものや保証するつながりがなかった）

②いきなり仕事をするのは難しいため自分のペース出来るゆるい仕事？があった。
（障がい福祉サービスに乗らなくても仕事ができた。）

③お金がないため年金の免除など各種手続きに同行してくれる人がいた。
（一人では行けずハガキがたまる。）

④居住支援など支援者と近くなる場面があっても上から目線で管理的な人がいなかったので、反発したり逃げ出すことはなかった。何となく似たような生活が困っている人がいたり生きづらさを抱えた人がいたりピア的な関係の中でそれなりに過ごせる。（体調悪くて動けないとき、薬や栄養ドリンクを買ってくれた。）

なぜか、働いていた　仕事が続いたわけ

①自分の状況などをわかってくれている人が上司で、仕事の相談ができてどんな仕事をするか働きかたの調整ができる。

②周りからは自分の存在が奇異に映り、排除とまではいかないが、面白くない人も一定程度職場にはいたが、上司が自分の存在についてフォローしてくれたり、好意的に見てくれる人もいて、その力や割合が大きかったので職場にいられた。

③通勤に困ったときは送り迎えしてくれる人がいた。

④フレキシブルな時間で働ける。

自立したように見えたかもしれないが…

- 実は課題は続いていた（実態）

①ギャンブルで借金を作った。お金をほとんどギャンブルに使う。（自分の成長のために投資できない。）

②部屋のそうじ、模様替えができず、快適な空間を作れない。自分の健康を維持できない。

③人を信用できず、自分から相談したり関係を築くことが困難。よって何かストレスがあると1人になり逃げがちになる。

セルフネグレクトと依存のメカニズム

DV虐待家庭で育ち、居心地がいいという事を動機に行動することが出来ず、居心地がいい刺激に似たギャンブルの刺激に快を求めてしまう。

その結果、自分の成長を阻害して健康状態の低下をまねいている。

また頑張ってもどうしようもない事がたくさんあったので、頑張ることよりあきらめる事が身についており、自分への期待や希望を持てず先に進もうと思ってもすぐに挫折して身近にあるギャンブルに戻り堂々めぐりとなる。

これが自分にとっての理解されにくい生きづらさの根本にあるものだと思う。

そして…今後に向けて

- ギャンブルは自分にとっての生きる術でもあるので、100％やめることはできないと思う。

- なのでギャンブルとのちょうどいい距離をつけるため、自分にとっての居心地の良い時間を作っていきたい。